

第36回日本分子生物学会・年会企画  
アンケート 集計結果

回答者数:1022名

ポジションと研究分野に関する設問

回答者数: 1022名

質問1. あなたのポジションは？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%
回答1 学部学生	1	0.1%				
回答2 大学院生	79	7.7%				
回答3 ポスドク	145	14.2%				
回答4 大学・研究所等の研究者 (助教、助手)	202	19.8%				
回答5 大学・研究所等の研究者 (講師、准教授)	272	26.6%				
回答6 大学・研究所等の研究者 (教授)	223	21.8%				
回答7 企業研究者	43	4.2%				
回答8 その他	57	5.6%				
合計	1,022					

※割合は合計を母数にして算出しています

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。＜複数回答可＞

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%
回答1 生物系	707	51.3%							
回答2 農学系	118	8.6%							
回答3 医歯薬系	473	34.3%							
回答4 理工系	49	3.6%							
回答5 情報系	25	1.8%							
回答6 その他	6	0.4%							
合計	1,378								

※割合は合計を母数にして算出しています

## 第1部 研究倫理と不正についての一般的な設問

回答者数: 1022名

### 質問3. ライフサイエンスにおいて、研究不正は大きな問題だと思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	
回答1 そう思う	834	81.6%											
回答2 ある程度そう思う	162	15.9%											
回答3 あまりそう思わない	18	1.8%											
回答4 そう思わない	6	0.6%											
回答5 わからない	2	0.2%											
合計	1,022												

※割合は合計を母数にして算出しています

### 質問4. ライフサイエンスにおいて、研究不正は極めて稀なケースだと思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%		
回答1 そう思う	66	6.5%							
回答2 ある程度そう思う	311	30.4%							
回答3 あまりそう思わない	345	33.8%							
回答4 そう思わない	255	25.0%							
回答5 わからない	45	4.4%							
合計	1,022								

※割合は合計を母数にして算出しています

### 質問5. 研究不正を目撃などしたことがありますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%		
回答1 所属する研究室で実際に目撃、経験したことがある	103	10.1%									
回答2 所属する研究室で噂があった	62	6.1%									
回答3 近隣の研究室からそのような噂を聞いた	330	32.3%									
回答4 具体的には聞いたことがない	496	48.5%									
回答5 回答なし	31	3.0%									
合計	1,022										

※割合は合計を母数にして算出しています

### 質問6. 研究不正は日本のライフサイエンスの現状や将来の進展に悪影響があると考えますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%		
回答1 そう思う	721	70.5%											
回答2 おおむねそう思う	220	21.5%											
回答3 あまりそう思わない	63	6.2%											
回答4 そう思わない	10	1.0%											
回答5 わからない	8	0.8%											
合計	1,022												

※割合は合計を母数にして算出しています

質問7. 研究不正に対しては日本の現行システムは十分に対応できると思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	
回答1 十分対応できる	14	1.4%							
回答2 ある程度対応できる	205	20.1%							
回答3 あまり対応できない	417	40.8%							
回答4 対応できない	311	30.4%							
回答5 わからない	75	7.3%							
合計	1,022								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問8. 研究不正に対する当該研究機関による調査、報告は適当であると思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%		
回答1 適当である	60	5.9%							
回答2 おおむね適当である	341	33.4%							
回答3 あまり適当ではない	352	34.4%							
回答4 適当ではない	224	21.9%							
回答5 わからない	45	4.4%							
合計	1,022								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか？ <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%		
回答1 当該機関(大学、研究所など)	349	22.6%									
回答2 研究費の出資機関(文部科学省など)	307	19.9%									
回答3 第三者の中立機関	795	51.6%									
回答4 その他	78	5.1%									
回答5 わからない	13	0.8%									
合計	1,542										

※割合は合計を母数にして算出しています

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%		
回答1 そう思う	335	32.8%							
回答2 おおむねそう思う	369	36.1%							
回答3 あまりそう思わない	173	16.9%							
回答4 そう思わない	48	4.7%							
回答5 わからない	97	9.5%							
合計	1,022								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	
回答1 と思う	148	14.5%						
回答2 ある程度と思う	331	32.4%						
回答3 あまりそう思わない	319	31.2%						
回答4 そう思わない	163	15.9%						
回答5 わからない	61	6.0%						
合計	1,022							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	
回答1 十分だった	18	1.8%						
回答2 おおむね十分だった	302	29.6%						
回答3 あまり十分でなかった	322	31.5%						
回答4 十分でなかった	240	23.5%						
回答5 わからない	139	13.6%						
合計	1,021							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%		
回答1 個人の問題	737	47.9%									
回答2 構造の問題	694	45.1%									
回答3 その他	108	7.0%									
合計	1,539										

※割合は合計を母数にして算出しています

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%		
回答1 教育	701	49.8%									
回答2 厳罰化	440	31.2%									
回答3 その他	268	19.0%									
合計	1,409										

※割合は合計を母数にして算出しています

## 第2部 科学論文不正疑惑についての本学会の対応と年会ワークショップに関する設問

回答者数: 1022名

### 質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	
回答1 十分だった	50	4.9%						
回答2 おおむね十分だった	348	34.1%						
回答3 あまり十分でなかった	167	16.4%						
回答4 十分でなかった	123	12.0%						
回答5 わからない	333	32.6%						
合計	1,021							

※割合は合計を母数にして算出しています

### 質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%
回答1 やるべきである	396	38.8%						
回答2 ある程度はやるべきである	429	42.0%						
回答3 あまりやるべきでない	79	7.7%						
回答4 やるべきでない	51	5.0%						
回答5 わからない	66	6.5%						
合計	1,021							

※割合は合計を母数にして算出しています

### 質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	
回答1 若手の倫理教育	458	19.5%						
回答2 PIの倫理教育	559	23.8%						
回答3 研究不正の背景	704	30.0%						
回答4 研究不正への対応策	542	23.1%						
回答5 その他	86	3.7%						
合計	2,349							

※割合は合計を母数にして算出しています

### 質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

項目	件数	割合	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%		
回答1 学会の責任者	39	3.8%									
回答2 不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	566	55.4%									
回答3 トップジャーナルの編集者	189	18.5%									
回答4 研究費助成機関	81	7.9%									
回答5 その他	146	14.3%									
合計	1,021										

※割合は合計を母数にして算出しています